

2010年の冬。千葉県鴨川市にある鴨川自然王国に訪れた際に、
大山千枚田という美しい棚田の近くにある「love&rice」を紹介されました。
そこで2人の若者と出会います。



love&riceとは、2人の若者が普通の生き方に疑問を抱いて、日本中を旅して見つけた場所。
もともと耕作放棄地になっていた棚田で、テント生活をするところから始まりました。
ある日、近所の宮大工さんから「ここは人々が集う場所だ」「ここに建物を建てろ」と声を掛けられ、
大工さんと夫婦2人で墨付けや刻みをし、沢山の仲間とともに3年をかけて
トイレ、お風呂、ゲストハウスを建設します。

お金を掛けず、人が人を引き寄せてこの場がある。
何をするにも、お金ではなく人のちからで生活していく学びの場でした。
そんな相互扶助の関係を垣間見て、そんな場所を作りたいとより一層思うようになりました。

一般の建築現場では、大きな現場は除いて
・ 図面が疎か（図面すらない、平面図のみなど）
・ 施主の意図が汲まれていない
・ 各職人はひとつの方向を向いていない（自分の仕事しか考えない）
など、いったい誰の財産に関わって仕事をしているのか疑問だらけなところが多くあります。

そんな中、参加型リノベーションを専門とし「ともにつくる」を理念とする市川市の工務店
「つみき設計施工社」と出会い「同じ方向を向ける、学べる」と感じ、
2015年からパートナーとしての活動を始めました。

参加型リノベーションとは、塗装やフローリング貼りなどの一般の方が挑戦しやすい施工を、施主やその家族、
友人とともにワークショップ形式で行うことを言います。
ワークショップを行うことで、住むひと・描くひと・造るひとのコミュニケーションが密になるのです。
「ともにつくる」とは、「結」が進化したものだと言えるでしょう。

Love&Riceについて、詳しくはこちらをご覧ください。
<https://ameblo.jp/super-daiku/entry-10733081876.html>

